ヒロシマから学ぶ

多摩市立多摩第一小学校　６年　黒河　碓央

「戦争はいけんことよ、原爆はいけんこと」

親戚の小学１年生が言いました。私は小学１年生が原爆がどういうものなのか知っていることに驚きました。しかし、広島の小学校で行われている平和学習について調べてみると、広島の小学生で原爆を知らない人はいないという事がわかりました。

今回、体調不良で広島派遣に参加できなかった私に、広島に親戚がいるのなら広島の小学校の平和学習について聞いて、それをまとめて発表してみるのはどうかな」とアドバイスを受け、広島に住んでいる親戚４人(小１、小３、小４、小６)にテレビ電話などで小学校の平和学習についてインタビューをしました。広島の平和学習の中で１番良いと思ったのは、原爆が投下された８月６日が登校日になっている事です。その日は８時までに登校して体育館の大型スクリーンで平和記念式典を見ながら全員で黙とうし、平和への思いをこめて歌を歌ったり、語り部さんから被爆体験を聞いたりするそうです。全国の小学校でも平和について考える登校日があったら良いと思いました。

色々と調べていると母が「せっかくだしおじいちゃんにも聞いてみる？」と言うのでおじいちゃんの家に行きました。おじいちゃんといっても私のひいおじいちゃんです。おじいちゃんは９１歳で電話で話すのが難しいので、直接話を聞きにおじいちゃんの家に行きました。最初はいつもの笑顔で「久しぶりじゃねぇ、よう来たね。暑いけぇ、はようあがりんさい。」と言ってくれたけど、戦争や原爆について話を聞こうとしたらこわい顔になってだまってしまいました。長い間、沈黙が続いてどうしようかと困っていると、おじいちゃんが涙を流しながら「あの頃のことは思い出しとおない」とだけ言って、だまってしまいました。母が「おじいちゃんごめんね、お菓子でも食べようか」と言ってくれたので暗い気持ちのままだまって、お菓子を食べて帰りました。おじいちゃんがどんな体験をしたのかわからなかったけど、戦争が終わって７７年もたっているのに思い出すと今でも涙が出るくらい大変な事があったんだということはわかりました。そしていつもニコニコしてじょうだんを言って笑っているおじいちゃんのそんな姿がとてもショックでした。

その後、被爆体験をインターネットで見ていて気づいたことがあります。被爆者の多くの方がおじいちゃんと同じように戦争や原爆のことを思い出したくないと思っていらっしゃるということです。しかし「むごたらしい原爆のことを思い出すのは怖くてつらい。でもそれ以上に二度と戦争をしてはいけない、自分達のように原爆で苦しむ人を出してはいけない。それを伝えるのが生き延びた者の使命だ。」そういう思いで被爆体験を話して下さっています。こんなに一生けんめい伝えて下さる原爆のひさんさ、平和の尊さを私達は受けとめて次の世代へつないでいくべきだと思います。

そのため、私は多摩市子ども被爆地派遣事業を通して学んだ事を、少しでもまわりの方々に伝えていきたいと思っています。